

令和6年度 学校関係者評価委員会 議事録

【日時】令和6年7月12日（金）10：45～11：30

【場所】こころ医療福祉専門学校壱岐校 1階相談室

【委員】壱岐市社会福祉協議会会長 末永 榮幸 様
壱岐市立老人ホーム所長 白川 昇吾 様
特別養護老人ホームハッピーヒルズ施設長 永田 信弘 様

【事務局】こころ医療福祉専門学校壱岐校校長 後藤 久志、
こころ医療福祉専門学校壱岐校教育部 野田比呂恵
こころ医療福祉専門学校壱岐校学生部 竹尾 真理

【総評】

（校長）昨年度の総評として次のように校長の自己評価をしています。

- ①国家試験において、日本3名全員と留学生2名の5名が合格しました。早期から目的意識をもって自発的に取り組んだ結果が実を結んでいます。久しぶりに留学生が2名合格できたのも本人たちの努力は勿論のこと、先生方の指導の積み重ねの成果であると自負しています。
- ②就職支援に関しては、日本人学生が3名で内2名は社協への就職が決定していましたので、就職合同面談会の開催はしませんでした。全学生就職することができました。今年度は日本人学生が8名おりますので、後期に面談会を計画しようと考えています。
- ③コロナ感染症が5類感染症となり、コロナ禍前の状況に戻りつつあります。今年度から点字の授業以外は対面の授業へと戻しております。
- ④留学生については、国家試験に2名が合格を果たし、続く留学生の大きな目標になりました。他の留学生についても高い意識を持って国家試験に臨みもう少しのレベルまで達した者もいます。2面目で日本語力もアップし、それに伴い学習意欲も向上したと思います。在校時においては、アルバイトによる自立生活を行い、同時に納税、日本の文化や習慣についての指導も根気良く行い、卒業後の社会生活を円滑に営めるよう支援しています。
- ⑤職員会議や朝会を中心に教職員間の情報を共有し、意思統一した上で運営に取り組んでいます。個人情報保護に努めながら、最新の注意を払い、学生からの相談内容を取り扱っています。そのために

も「報・連・相」の体制を更に推進していきます。先生方の指導に対する評価はかなり高いと思います。

- ⑥中学校や高校の進路説明会やガイダンスに職員を派遣し、正確な情報の伝達と広報活動に力を入れています。また、オープンキャンパスにおいては、在校生の意見を直接聞く機会を設け、入学に対する不安の解消に努めています。その他情報発信として、SNSや地元メディアを活用した広報活動も行い、その成果も現れています。年々高校生は少なくなっていますが、一人でも多くの日本人学生が入学してくれるように広報活動を行いたいと思います。

(1) 教育理念・目標

(校長) 全学生が、卒業後即戦力として働けるように指導しています。振り返りと改善を行いながら、日々育成に必要な教育活動を展開していきます。一旦島外へ出てそして戻って来る、島外へ出て行っても、学業とアルバイトを両立するつもりが、アルバイト中心の生活になってしまっただけでは意味がありません。オープンキャンパスや学校進路説明会など、保護者と話す機会も増えております。その中でこのようなことがないように学生・保護者・高校等、幅広い層に働きかけを行いたいと思います。

日本人学生全員の国家試験合格が最大の目標です。欲を言えば、留学生の中から数名の国家試験の合格者が出てくれることを願っています。学生のレベルも毎年異なりますので厳しいときもありますが、入学したからには一人でも多く合格させたいと思っています。日本人学生の合格率100%、就職率100%については今後も譲ることはできません。

(2) 学校運営

(校長) 地域の福祉を包括的に支援するという岩永学園グループのビジョンを念頭に置き、グループ内の教育事業としての責任を果たせるように運営方針を策定しています。教育活動や募集活動等に関する情報をホームページに公開していますが、更に若い世代の人々にSNSやメディアによる幅広い情報発信を行うことで、卒業後のイメージを分かってもらえるようになってきました。事業所のご協力に対しても感謝しています。

(3) 教育活動

(教育部) 規則に基づいて体系的に編成されたカリキュラムを実施しています。コロナの影響を受けながらも、市内の介護事業所の協力を得て実習が実施できていることに感謝を申し上げます。そうした施設の協力もあって、実践的で効果的な実習を行うことができました。

(校長) コロナ感染症の流行以来、なかなか交流的な活動がほとんどできないでいます。地域の運動会が復活すれば、学校行事として協力できると思っています。国家試験に向けて、いつ始めるか生徒の意識の問題があるが、職員の指導力のスキルアップも含め、目標達成のための支援を行っています。

(委員) 実習に来た学生について、次のような現場の評価を聞いています。2名の留学生は指導者が指示したことについて応用の利いた対応ができています。目配りや気配りなど積極的な活動ができています。実習生が個別に活動し、お互いに技術向上を目指している。日本人男子学生についても第1段階の実習ということもあり、最初は緊張のために動けなかったが、後半は積極的な活動がみられた。トイレの付き添いや入浴に対しては思いやりのある対応ができていた。明朗で適切な言葉遣いによる利用者との会話ができていた。業務に取り組む真剣さが伝わってきた。女子学生はおとなしい感じでコミュニケーションがなかなか取れず、苦慮していたが、時間を追うごとに周りが見えてきて、自分から進んで話しかけられるようになった。実習が進むにつれ、自分が何をすればよいのかをよく考えて、判断して動けるようになった。実習の内容もよく理解できていた。以上です。

(教育部) 評価について具体的な内容を聞くことで今後の指導にもつながります。ありがとうございます。1年生は今年度中に第2段階の長い実習もありますので、見えてきた反省や課題を次につなげることができるように振り返りを行わせます。

(4) 学修成果

(校長) 昨年度の国家試験は、日本人学生3名全員と留学生2名の合計5名が合格しました。話によると卒業した者も、継続して挑戦し合格した者がおります。留学生の中には田舎で不便と言う者もおりますが、卒業する覚悟をもって来てもらいたい。入学前に丁寧に説明も行っております。留学生には色々なネットワークがあり、様々な情報が入ってくるために、入学当初とは違う考えを持つ者も出てきま

す。施設から奨学金を借りて勉強しているのに、そこを断って別の施設に行く者もあり、日本的な礼儀やマナーを守るよう徹底して指導しているのですが、金銭的な面だけにこだわり全く受け付けない学生もいます。卒業後就職してからすぐ辞めて別の施設へ移るなど、施設に迷惑を掛けている者もいます。

(5) 学生支援

(事務局) 従来、市内の各施設と連携した合同就職面談会を実施していましたが、ここ数年日本人学生が少なく個別訪問の形をとりました。今年度は日本人学生が8名なので後期に合同面談会を開催したいと思っています。コロナ禍で、課外活動については十分な支援を行うことができませんでした。留学生に対しては、手続きの職員同行、買物やアルバイトの送迎、通院等丁寧に対応しています。現在、多くの学生を受け入れており、アルバイト先の確保、送迎の対応等に苦慮しておりますがどうかやりくりをしています。多様性の問題など、今後も新たな課題は出てくると思います。

(委員) コロナ対策での環境を整えるのは、どの施設も努力が必要です。

(6) 教育環境

(事務局) 施設備品については、リモート授業対応の教室やプロジェクターなどの備品も確保できており、柔軟に運用できております。施設実習についても、コロナ禍にもかかわらず、市内介護施設で受け入れをしていただき、各学年とも時期にズレは出たものの実施することができました。留学生が大半を占めていますので、消防署や警察署の協力のもと、防災・防犯教育を行っています。

(7) 学生の受け入れ募集

(校長) 中学校の進路説明会や高校ガイダンスにも積極的に参加し、オープンキャンパスも開催しています。SNSや地元メディアなども活用し、学校の目的や取得できる資格、学費支援についても丁寧に説明しています。そうした広報活動の成果が表れ始め、入学者数も増えてきています。卒業後の進路先も多くなり、活躍が認められ、高校生や一般、保護者の関心も高まっています。今後も島内で学ぶことの経済的メリット、メンタル的なメリットを継続して伝えていきたいと思っています。

(8) 財務

事務局) 少子高齢化が顕著であることを考えれば、壱岐市内における介護人材の確保、若者の大切な進路先、その後の就職に繋がるということのアピールし、学生の確保に努め、安定した授業料収入に繋がりたいと考えます。家庭や学生の経済的不安を解消する手段としての減免制度や修学資金の活用など、丁寧な説明や情報提供に努めたいと思います。

(9) 法令等の遵守

事務局) 自己評価の実施については全職員・学生を対象に行い、学校評委員会で、評価・改善を行っています。よりよい学校運営を構築するためには、提起される問題・課題に対し各職員が改革意識をもって業務に臨む必要があります。

(10) 社会貢献・地域貢献

事務局) コロナ禍にあって十分な社会・地域貢献ができていません。世間では徐々にコロナ禍前の普段の日常に戻りつつありますが、コロナウイルス感染症と今後どう共存していくのか模索しなければなりません。学生たちも土日はアルバイトをしながらの生活を送っており、普段から行えるボランティア活動など、何か情報がありましたらいただきたいと思ひます。

(11) 国際交流

事務局) 留学生の受け入れについては今後も積極的に行っていますが、日本語能力に個人差があり、日本人学生と同じ授業を受けさせる困難を何とか克服すべく、全学生の学習意欲の維持と向上に努めます。留学生においては、学校や普段の生活における日本語力の向上、日本文化を理解することの大切さを伝え、職員においては、丁寧な指導をもって授業に対する困難さの軽減を図りたいと思ひます。

事務局) 本日は、貴重なご意見をいただき感謝しております。明確になった課題については、改善のための具体的な方策を立てて、今後のより良い学校運営に活かします。また島内唯一の介護福祉士養成の専門学校として、介護人材確保に努めます。成果についての数的目標を掲げ、実績を残していきたいと思ひます。

委員の皆様方には、これからもご指導・ご意見を賜りますようお願い申し上げます。本日はありがとうございました。